

V 教育課題

第10分科会 健 康

■ 研究課題 ■

たくましく生きる心と体を育む健康教育と校長の在り方

分科会の趣旨

社会環境・生活環境の変化は、人々の生活様式に大きな影響をもたらしたばかりでなく、子どもたちの心身への影響も大きく、体力・運動能力の低下をはじめ、ストレスや肥満傾向の増加、生活習慣病への危険性の高まりなど、様々な健康問題を引き起こしている。また、日常生活が便利になったことにより、基本的な生活習慣や食生活の乱れなどの問題も生じている。

こうした状況の中で、子どもたち一人一人に健康についての関心を高め、健康であることの意義を認識させるとともに、自らの健康を適切に管理し改善する能力を培うことは重要な課題である。

また、子どもたちが健全な食生活を営むことは、健康で豊かな人間性を育てていく基礎となることはもちろんのこと、今後とも、我が国が活力と魅力にあふれた国として発展し続けていく上でも大切であり、食育の重要性が大きく叫ばれるゆえんでもある。

これらのことを踏まえ、学校での教育課程における指導とともに、各家庭やPTA組織及び地域の役割を明確にするなど、学校・家庭・地域の密接な連携・協力が必要と考える。

本分科会では、これからの時代を生きる子どもたちが、困難に直面した時も、自らそれに立ち向かっていける知力と体力を身に付け、たくましく生き抜いていくことを目指す健康教育や食育を推進するための具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進

朝食をとらない、自分で起きることができないなど、子どもたちの体の変調が問題視されている。

このような状況にあって、食事、運動、休養、睡眠などの重要性を理解し、自らの基本的な生活習慣を見直すことや、心と体の密接な関連性を理解し、様々な欲求やストレスに対して、状況に合わせて適切に対処できる力を育てることは重要な課題である。さらに、生活習慣病や基本的な感染症に関する知識をもち、個人でできる予防手段を講じることができると、自分の体への関心を高め、生涯にわたって健康を維持できる能力を育む必要性が叫ばれている。

心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実

メンタルヘルスに関わる課題やアレルギー疾患など子どもの心と体に関する様々な健康問題が生じている。さらに、子どもたちの食生活において朝食をとらない、偏食、孤食といった課題が生じており、生活リズムを身に付けさせることや生活習慣病を予防するために、正しい食に関する知識と望ましい食習慣を育むことが大切である。

食育の指導にあたって、養護教諭や栄養教諭の主体的な関わりとともに、全教職員それぞれの役割を明確にし、相互の効果的な連携と取組の体制確立のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

子どもの心身の健やかな成長を促す

健康教育の推進と校長の役割

空知地区 深川市立納内小学校 石丸 由美子

I 趣 旨

子どもが心身ともに健やかに育つことは、家庭や地域を問わず、時代を越えて全ての人々の願いである。

しかし、今日、経済・社会のグローバル化、情報化の進展、少子高齢化などが進み、子どもを取り巻く社会環境は大きく変化している。このような時代の急激な変化は、大きな恩恵をもたらしている反面、人間関係の希薄化や精神的なストレスの増大、運動不足など、心身両面にわたり健康上の問題を生み出している。

学校において、体力・運動能力はここ数年向上してきているものの、ストレスによる心身の不調などメンタルヘルスに関する課題や性の逸脱行為・喫煙などの課題、さらには食生活の乱れの深刻化に伴う課題が生じており、その解決が求められている。また、家庭では、朝食欠食、偏食、孤食といった食習慣の課題を始め、基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが増えている。地域においても、地域連帯感の希薄化とともに、子どもたちの遊びの形態が変化し、地域の中で体を動かす機会や場も減少傾向にある。

こうした課題に対応するためには、学校教育において、子どもたち一人一人に心身の健康への関心を高め、その価値を認識させるとともに、健康管理能力を培うための健康教育の推進と組織体制の整備、食に関する指導の充実と望ましい食習慣の形成を図ることが重要である。さらに、子どもの健康観を形成し、健康づくりの基盤をつくる場である家庭や地域社会との連携を強化し、生涯を通じた健康づくりの実践力を養うことも不可欠である。

そこで、深川市校長会は、学校における包括的な健康教育を推進するための課題や校長としての役割と指導性の明確化を目指し、健康教育とその基礎ともいえる食育教育に関して実態調査を実施した。この調査結果の分析を通して課題解決策を確立するとともに、これからの時代をたくましく生き抜く子どもたちを支える健康教育の充実を図る校長としての経営戦略と指導性を明らかにしていきたいと考えた。

II 研究の概要

深川市校長会は、現在の子どもの健康についての一般的な傾向、さらには北空知の健康教育推進の実態を踏まえて、基本主題「子どもの心身の健やかな成長を促す健康教育の推進と校長の役割」を設定し、平成23年度から三か年計画で研究を進めてきた。研究の推進に当たっては、基本主題を受けた2本の副主題（サブテーマ）と、それぞれ3点の具体的視点を挙げ、実態調査の分析により課題解決の方向性を見出し、校長としての役割と指導性の明確化を図ろうとした。また、空知校長会とも連携を図り、研究の進捗状況報告や交流を図りながらの研究成果を蓄積してきた。

1 副主題と研究推進の視点

- (1) 自らの健康を見つめ実践する力を育てる学校経営
 - 子どもが健康に関する知識や技能を高め、生涯にわたって健康を維持できる能力を育む健康教育の推進と校長の役割・指導性について考える。
 - ① 健康教育推進のための学校体制の整備・充実と校長の関わり
 - ② 健康管理能力の育成を図る教育活動の推進
 - ③ 家庭・地域・関係機関との連携による健康教育の推進
- (2) 健全な食生活を実践する力を育てる学校経営
 - 子どもが食への理解を深め、日常生活で実践していく能力や態度を育てる計画的・体系的な食育の推進と校長の役割・指導性について考える。
 - ① 栄養教諭の活用による食育指導の充実と校長の関わり
 - ② 家庭との連携による望ましい食習慣の確立
 - ③ 地域に根ざした食育指導(教育活動)の充実

2 研究推進の概要

- (1) 北空知各校における健康教育とその基礎ともいえる食育教育について実態調査を行い、現状を把握するとともに、調査結果の分析と実態交流により校長会としての共通課題を設定し、解決の方向性について検討する。

- (2) 校長会としての共通課題の他に、各校の実態を踏まえて各校の独自課題と研究推進計画を樹立し、課題解決に向け実践する。
- (3) 各校の実践事例及び進捗状況について定期的に交流を図る。
- (4) 先進的な取組事例の分析を通して、課題解決の方策を考えるとともに、校長としての役割と指導性を明らかにする。

3 研究推進計画（年次計画）

- (1) 平成23年度の研究
- ・健康教育の基本的事項の確認
 - ・健康教育、食育教育についての実態調査
 - ・基本主題、副主題、推進の視点の確立
 - ・共通課題の設定と研究推進計画の樹立
- (2) 平成24年度の研究
- ・各校研究推進計画の構築
 - ・進捗状況の交流と課題解決の方向性の修正
 - ・推進の重点の設定と推進計画の修正
 - ・先進的な取組事例の研究
- (3) 平成25年度の研究
- ・実践交流
 - ・成果と課題の明確化
 - ・校長としての役割、指導性の明確化

4 研究の内容

(1) 実態調査

実態調査は、北空知（深川市・沼田町・北竜町・雨竜町・秩父別町・妹背牛町）の小学校と深川市の中学校を対象に①健康教育についての推進状況 ②食育教育の実情をとらえる内容で実施することとした。また、それぞれに「学校経営」「教育活動」「家庭との連携」「家庭生活」「行政の役割」という観点で、健康教育について30項目、食育教育については20項目の設問を設定し、到達度方式（一部記述方式）で行った。

(2) 課題設定と解決の方策

健康教育の実態については『異校種完結型から自己完結型』への健康管理能力育成の基盤を構築するために中学校の現状についても調査した。しかし、学校規模や地域性による違いがあるため、校長会としての共通課題を設定するとともに、学校の実態に応じた解決策の確立を図り、各校における具体的な実践を行うこととした。また、毎月行われる校長会研修時には取組の進捗状況について交流し、効果的な具体策や成果と課題の明確化を図った。

① 健康教育についての課題と解決の方向性

課：教師の、健康教育に対するより一層の理

解と指導力の向上を図ることが重要である。

課：家庭生活における子どもの生活行動、並びに保護者の意識については不透明である。

策：研修を充実させ、教師の意識改革と実践的指導力の向上を図る。

策：基本方針の明確化を通して、健康教育の必要性・重要性について教職員の理解促進を図る。

策：学校評価などを活用して子どもの家庭生活における実態を把握するとともに、保護者の意識啓発のためにも情報の積極的な提供と学習機会の拡充を図る。

策：向上しつつある体力・運動能力の維持を図る。

② 食育教育についての課題と解決の方向性

課：食育についての全体計画は存在するが、実践の場で生かされる学年別の指導計画は未整備である。

課：保護者の食育に対する考えや、子どもの食習慣については不透明な面が多い。

課：食育推進に対する教職員の意識や指導力は高くはない。

策：栄養教諭を中核にした食育推進体制を構築し、推進計画の整備・充実を図る。

策：栄養教諭や地域人材を活用した授業を構築し、子どもの健康管理能力の向上を図る。～保護者にも授業を公開していく。

策：家庭と連携して食育を推進するためにも、家庭における食習慣についての実態を把握し意識啓発を図る。

策：栽培などの体験活動を積極的に導入したり、学習環境を整備したりするなどして、子どもや保護者の食に対する意識の啓発を図る。

(3) 実践事例

① A小学校の実践～教職員の意識改革

A小学校では、子どもの基本的な生活習慣の乱れが課題となっはいるが、大きな問題行動がなく家庭からも改善に向けての声も多くないことから、学校内には安易な安心感が蔓延し、前例踏襲や現状追認、学級抱え込みの意識が根強く残っている。そこで、児童の実態（学習・生活）調査を行うことで現状を把握し、課題の明確化を図るとともに、課題解決に向けて全教職員による「知」「徳」「体」の三つのプロジェクトチームを編成し、具体的な解決策を検討した。また、健康教育に関わった研修を設定し、健康教育についての理解促進と教職員の実践力の向上を図った。

成：プロジェクトチームの編成による取組は、教職員の意識・意欲の向上に結び付き、学校としての課題と解決策の共通理解の重要性について認識させることができた。

課：実践場面になると学級抱え込みが目立つ。常に情報や実践を気軽に交流できる雰囲気や場が必要である。また、家庭における生活習慣形成のためにも、学校評価に家庭での生活習慣についての項目を取り入れたり、便りを通してその重要性についての情報を提供した、PTA主催の講演会や研修会の導入を図ったりしていく。

② B小学校の実践～栄養教諭の活用

B小学校では、子どもの偏食、欠食などの改善に望ましい生活リズムと食習慣の確立を図ることが重要と考え、特別活動での学級担任の指導を中心に養護教諭の保健指導、栄養教諭による食に関する指導の充実を図っている。栄養教諭はA小学校に配置されており、給食センターでの栄養士としての業務を兼務しながらも、給食時間などを利用して各学級において食に関する種々の指導を行っている。

成：栄養教諭の意欲的な教育実践により充実した食に関する指導が実施され、子どもの食生活・食習慣に対する意識の高揚が図られた。

課：栄養教諭の拠点校となっているが、給食センターの栄養士を兼務するため、在校時間が限られている。また、市内一人の栄養教諭となっていることから、市内各校の巡回による食育指導の調整が難しい。

③ C小学校の実践～教育活動の充実

C小学校では、総合的な学習の時間に深川市農業センターの協力のもと、4年「ジャガイモ」、5年「米」、6年「大豆」を育てて収穫し、収穫した作物を使って料理や加工品を作るなどの農業体験活動を行っている。

【5年～パエリア作り】

子どもたちが作った米と深川特産の「黒米」、深川産の野菜を使い、北空知女性農業者グループ『昴（うずら）』の方々の指導の下、パエリア作りに挑戦した。

【6年～豆腐作り】

子どもたちが育ててきた大豆を使って、北空知農協イチヤン女性部販売部の協力・指導の下、大豆をつぶしたり豆乳ににがりを加えたりするなどの豆腐作りの始めから終わりまでを体験した。

成：地場産物や農業について理解や関心が深まるとともに、生産に関わる人々の苦労を知ることにより、感謝の気持ちや食物を大切に作る態度などが育った。

課：総合的な学習の時間や家庭科ばかりではなく社会科など他教科との関連を図っていくとともに、学校の取組についての発信を図るなど、より一層家庭との連携の強化をしていく。

III まとめ

1 成 果

- (1) 地域の専門家や関係機関の知見や能力を最大限に活用した体験活動の導入、学校から家庭に対しての情報提供など、さらには校内研修による教職員の意識改革等によって、健康教育の充実が図られた。
- (2) 健康教育や食育の推進を経営方針に位置付けるとともに、課題の明確化、並びに具体的な解決・改善策に基づいた計画的・継続的な取組により、校内や家庭に子どもの健康づくりの重要性についての浸透が図られた。

2 課 題

- (1) 健康教育の推進にあたっては、各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間などにおける心身の健康に関連する学習内容相互の緊密な連携を図り、横断的・総合的な指導の充実を図ることが重要である。
- (2) 栄養教諭の専門性を生かした食育指導の一層の充実を図るとともに、健康教育を組織的に推進する役割を担う校内委員会を組織し、校務分掌に位置付けていくことが重要である。
- (3) 健康（食育）教育の推進については、学校から家庭・地域への啓発が行われているが、より一層の効果を上げるためには、家庭の理解と協力、家庭における子どもへの指導が不可欠であり、今後とも家庭・地域への積極的な情報提供や啓発活動の継続が重要である。

校長のリーダーシップが学校、家庭及び地域全体の意識向上へと取組の活性化に与える影響は極めて大きい。そこで校長は、自らが健康教育の重要性を再認識し、健康教育を学校運営の基盤に据えるとともに、学校、家庭及び地域社会との連携を強化した組織体制の整備・充実を図っていくことが重要である。